

会 議 録

1 会議名

平成 27 年度 第 3 回上越市地域包括支援センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成 27 年度地域包括支援センター活動実績報告（公開）

- ・地域包括支援センター活動実績について
- ・地域ケア会議、個別地域ケア会議について

(2) 平成 28 年度地域包括支援センター委託事業（案）について（公開）

- ・地域包括支援センター委託内容（案）について
- ・地域包括支援センター重点事業について

(3) 地域包括ケアシステム構築のための取組について（公開）

(4) その他（公開）

3 開催日時

平成 28 年 2 月 18 日（木）午後 7 時から午後 8 時 30 分まで

4 開催場所

上越市春日謙信交流館 集会室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：揚石義夫、原等子、中野耕子、渡邊美和、丸山和則、田中美紀、竹内明美、田中公彦、押山貴光、青山隆一、片岡敏明、佐藤貴規、杉田みゆき
- ・ 事務局：笹川高齢者支援課長、佐藤副課長、細谷介護指導係長、小酒井主任

8 発言の内容

(1) 議題 平成 27 年度地域包括支援センター活動実績報告

【事務局】 （資料 1①～④により説明。）

【揚石会長】 （委員に事務局説明への質疑を求める。）

- 【青山委員】 介護予防教室の実績についてですが、参加者で改善した方が1割程度見られると書かれていますが、この1割というのは予想と比べて高いのか低いのか、どんなもんなんですか。
- 【笹川課長】 改善という意味では、1割というのは予想よりも高いという事もないし、こんなものかなという形で考えています。
- 【青山委員】 だいたい予想どおりという事で、今後ともこの方針でいけばいいという事ですか。
- 【笹川課長】 今後効果を見ながらまた中身を変えていくこともありますので、改善というよりも、その状態を維持していただくのが一番の目的だと思っております。そういった意味では、もう少し改善につながればいいと思っております。
- 【青山委員】 現状としては満足という事ですか。
- 【笹川課長】 最初の一年としては満足です。
- 【原委員】 地域支え合い事業に関してですが、生活支援コーディネーターというのは地域ごとに配置しているという事ですが、上越市で何名程いらっしゃるのかということと、サロンの実績と介護予防の実績も延べ参加者数で載っていますが、通所型サービス、訪問型サービスは利用者数ということで、延べではなく実際にどのくらい市民の方が利用されているのか分かれば教えていただきたい。また、介護予防教室の中で何をして、介護予防というと歩行機能だけではなく、他の効果も考えられると思いますが、それも含めて改善があったのか、歩行機能だけだったのか、それ以外の何かあったのかお聞きしたいです。
- 【細谷係長】 生活支援コーディネーターの配置人数ですが、地域自治区1区に1人ずつなので、上越市全体で28名の生活支援コーディネーターの方を配置しております。介護予防教室の参加者延べ人数になりますが、資料1-②の裏面に載っている通所型サービスの住民主体によるサービス通所B、こちらの利用者数126名が要支援1,2、またはチェックリストの該当者であって、国が考える通所Bの主たる参加者という方がこの実人数になっています。ただ、今年度1年をかけて移行するという事もありますし、地域で元気な高齢者の方にも、ぜひ介護予防教室

に通った方がいいだろうというハイリスクの方は、認定等を受けていなくても包括で紹介していただいて、参加してもらっている実情がありますので、この辺の数字が実人数と延べ人数で違ってきている部分と考えています。また、介護予防教室の評価項目になりますが、1月に国からやっと地域支援事業の要綱が市町村に配布されました。その要綱の中で、一定の評価項目に考え方というような形で示されたものがございましたので、現在その要綱の評価項目とやっている私どもの中身と照らし合わせた評価項目を現在作成しております。

【原委員】 上越市としては、以前あった介護予防事業というのが運動と栄養と機能向上。その3つの介護予防の関係で、全く同じなのか違うのか。

【細谷係長】 全く違います。

【原委員】 いろいろな評価項目を踏まえたうえで、内容を決めてくださいと。

【細谷係長】 国の要綱も踏まえて、ただ先ほど課長からも資料1-②で説明させていただきましてとおり、単なる機能向上だけではなく、認知の部分ですとか生活習慣病、疾病の重症化予防という視点も、この教室の中に入れてありますので、その辺もしっかりと評価項目の中には入れていきたいと考えています。

【揚石会長】 この地域支え合い事業は上越市が先行してやっているの、参考にするところがないまま手探りでなさっている事業だと思うんですね。それで今日のお話で、かなりの延べ参加人数もいらっしゃるというお話でしたが、それぞれ地域によってずいぶん温度差があったり、課題も違うのだらうと思いますが、いくつか現場の運営されている方からこういう課題があるとか、こういうことで困っているとかあれば教えていただきたいと思います。

【小酒井主任】 現場の声としては、例えば山間地に行きますと、介護予防教室の利用者の平均年齢が80代以上という方が中心となっています。そうしますと、60代70代の方が参加しますとなかなか一律同じようなことをするのが難しいということで、講師の方も苦慮しながらやっているという事を聞いております。浜の方になりますと、血圧が高いという課題がある地域がありますが、そういうところでは毎回血圧を測定し

て、高くなってきた方には家でも計ってみてという対応を取っているところもあります。地域によって課題に合わせた形でやってきています。

【揚石会長】 集団でやる場合は、ある程度個別な対応が地域で工夫されていると思います。またノウハウが蓄積されるべきだと思いますので、このサロンや介護予防教室を行っていらっしゃる方々の間での情報交換ですとか成功例、失敗例を話し合うとか、イメージ的にはそんな感じで、やっていらっしゃる方々のモチベーションを上げる取り組みも必要だと思います。

【小酒井主任】 生活支援コーディネーターの研修を年間6回予定して実施しております。地域の課題とかどこと連携していったらいいのかとか、どんな課題が出ていてどんなふうに行っているのかというような共有を大事にしながら進めてきているところです。

【竹内委員】 私は期待と要望を込めまして、私の東雲町ですが平成9年から社会福祉協議会さんからの指導の下で、小地域ネットワークで見守りの会というのを行ってございまして、75歳以上が対象で、それぞれに町内の10人くらいでメンバーで各戸を見てやるという、1年間に1回食事会をしたり、シクラメンの配布をしたり、町内会や社会福祉協議会さんから補助をいただいておりますが、それだけではできないのでその中で要望としましては、これからは連携をしていただきたいというのがあります。私たちはボランティアでしかないのですが、中には民生委員の方もいらっしゃいますが、家庭の中まで踏み込むことまでなかなかできなくて、閉じこもりの予防を今後考えていますが、閉じこもった人をいかに出すかというのが、毎月やっている会議の中でいつもそれがテーマなんです。どんどん年齢を重ねるにしたがって、独居になってしまったり、その独居死をなるべく東雲町ではなくそうという事を一番に掲げていますが、そここのところが難しくても何回話し合っても分からなくて、今後こういうものがあったら連携させていただいて、私らにも勉強させていただく機会があればうれしいなと思います。

【揚石会長】 サロンに参加したいという事ですか。

- 【竹内委員】 サロンに参加したいという事ではなくて、こういうコーディネーターさんがいらしたら、私らにも地域で10人くらいボランティアがいますが、月1回の会議に来ていただいて、指導していただく機会があったらいいなという事を要望として上げました。
- 【細谷係長】 生活支援コーディネーターは、サロンの運営ですとか地域支え合い事業の運営を担っておりまして、竹内さんたちは閉じこもり予防を目的に運営していただいているので、そちらの閉じこもり予防に向けて具体的な相談相手としては、生活支援コーディネーターではなく、地域包括支援センター等の職員に声を掛けていただければ、どんなふうに関わったらいいのか相談できると思います。
- 【竹内委員】 ところが長年ずっとやっていますが、私が地域包括支援センターの方にお会いしたことがなくて、なかなか連携というのがとれてないのかなと思っているので。
- 【細谷係長】 ぜひ包括にご連絡いただければ、いくらでも地域に出て皆さんの会に参加させていただいて、どんなふうに関わっていけばいいのかというところも協議させていただきますので、ぜひ声を掛けていただければと思います。
- 【竹内委員】 ボランティアも勉強する機会がないと、今のメンバーだけで話し合っただけで会議を進めても、なかなか無理なところがあるので、そういうところで知恵を貸していただきたいなと思っております。
- 【丸山委員】 資料1-②の次のページの(3)訪問型サービスについてというところで、緩和された現行のサービスという事で、通所型Aというのは訪問型の間違いだと思いますが。
- 【笹川課長】 申し訳ありません。記載ミスです。
- 【丸山委員】 利用者の数が現行のサービスで42人、緩和された基準が275人とありますが、地域的に割合にずいぶん違いがあるとか、市内でばらつき等は出ておられますか。
- 【細谷係長】 こちらの方で包括から上がってくる、または居宅から上がってくるケアプランを見せていただいている現状では、地域性というのは見えてきていません。

【丸山委員】 ありがとうございます。

(2) 議題 平成 28 年度地域包括支援センター委託事業（案）について

【事務局】 (資料 2①～④により説明。)

【揚石会長】 (委員に事務局説明への質疑を求める。)

【佐藤委員】 今の 28 年度の方針と、今年度実績といった活動に含まれるような話ですが、包括ケアシステムという部分が 28 年度方針にも入っていて、1 年目今年度やって、今年はスタートした年でいいと思いますが、来年度はそれを加速する年なんだろうなと思っていますが、具体的に包括支援センターの来年度方針にも言葉としては入っていますが、具体的に何か来年度、今年とは違うとか、新たなとか、さらに加速してという取り組みが具体的に何か見込んでいるもの、通いの場であったら今年は拠点を作りましょうというお話が主だったと思いますが、来年その部分がどういった広がりを見せていくのだとか、訪問型サービスでも、訪問型 B というところが、今年度実績の中では抜けていますが、来年度それが実際に取り組まれるような計画であったり動きというのをやっていくのかどうかというところが、もし今のタイミングでお話しできるようなことがあればお聞きしたいと思います。

【揚石会長】 新総合事業の展望ということですかね。

【佐藤委員】 具体的な活動という部分で、今年度の報告は先ほどいただきましたし、方針の中でもそこをしっかりと構築していくという事は書いてありますが、具体的な動きとしてどういう動きを描いているかというところをお聞きしたいと思います。

【原委員】 いくつかの事業が始まっていて、盛りだくさんの事業が地域包括支援センターで行われていることになっていますが、上越市のこれらの事業をまとめるスローガンのものを考えられているのかどうか。何を目指して目標に掲げてするのか。いろいろな課題はあるのだけれども、例えば来年度は先ほども言った閉じこもりの人を支援しましょうという事なのか、他にいいのかというところで、他の生活習慣病予防もやらなきゃいけないことはたくさんあると思いますが、何か上越市

らしさというか、そういうものがあるといいなと思います。

【細谷係長】 今私共の方で説明させていただきましたのは、地域包括支援センターの次年度の委託内容というところで、前回その前に報告させていただいた新総合事業とは違う部分の報告でしたので、その部分について協議させていただいて、その後皆さんの方から地域包括ケアシステムで、それぞれ皆さんお感じになっているところの意見交換の時間を取らせていただいていますので、佐藤委員と原委員の御意見等については、後の部でさせていただければと思いますのでよろしくお願い致します。

【揚石会長】 今日の流れもそうですが、包括支援センターの業務というのと、新総合事業というのはちょっと違う。包括支援センターが、全部包括ケアシステムをやるというのはとはちょっと違うと思いますので、後でたっぷりお話しいただければと思います。それでは今までの説明の中での御質問はいかがですか。特にケアマネさんに対する支援をもっと頑張ってみましょうという話もありましたが、中野さんと渡邊さんの方からは、何かその辺の御意見はありますか。

【中野委員】 今まで包括の関わりというと、予防介護の方で御指導いただくのが主だったので、これからもそうだと思いますが、包括は本当にやることたくさんあって、気の毒な気もしないでもないですが、私たちが分からないことや相談したいことを、自分なりの知り合いの中で相談するという形を今までとっていましたが、来ていただければ本当にありがたいと思います。

【渡邊委員】 私たちがこの会に参加させていただくのは、上越市の居宅介護支援のケアマネ協議会というのがあるって、その中でも居宅のケアマネだけではなくて、包括のケアマネさんも主体になって頑張ってくださいの方もいらっしゃいます。前は、私たちの苦手な介護予防ケアプランの作成について御協力いただいて、具体的な御指導をいただいて良い研修だったととても好評でしたが、各包括支援センターによって事業に重点を置くところが違うんだなというのが、私が色々な包括の方たちと接して感じたことで、その中で介護予防プランに対してすごく

熱心に勉強されて、マンツーマンで御指導してくださる方もいらっしゃるれば、先程細谷さんが言ったように、同じ包括の方でもプランに対する熱の入れ方と言ったら失礼ですが、すごく温度差があって、そこを私たちが同じようにしていただきとなかなか申し上げられないので、今回こういうふうに支援していただきと言うように重点ビジョンに上がったという事は心強いし、支援頂けるのであれば有り難いと思っています。

【揚石会長】 妙高市で何年か前に自立支援プラン会議というのがあって、包括が居宅の支援事業所に声を掛けてケアプランを出してもらって一緒に検討するというのをやっていたのですが、どんなやり方がいいのかはそれぞれ包括が考えるところがあると思いますが、包括支援センターの自主性というか主体性が大事なんじゃないかなと思います。もうひとつ、先程自己評価というのがありましたが、今の渡邊さんのいいお話だったと思いますが、ケアマネさんから見ただけの包括の評価があると思うんですね。別にこの包括がこんなにずるいことをしているというのではないですが、包括支援センターをそのエリアの居宅介護支援専門員の方々の方から評価していただくというようなのも、考え方としてはいいんじゃないかなと思います。お互いにお互いを評価しあう関係性というのは大事なのかなと思いますので、具体的なやり方等はあると思いますが、市の方でその辺をちょっとお考えいただくと、ほど良い緊張感が持てるのではないのでしょうか。

【片岡委員】 今の話に関連してですが、成年後見の相談をいろいろ受けている中で、包括によってかなり対応が違うなというのを感じています。ある包括に関しては、明らかな虐待事例であるのにも関わらず、虐待として市に上げて対応してもらった方がいいですよと関係者が全部言ったのに、とうとう上げずに違う方向にもっていったりしているところがあったりとか、成年後見をやっているとそこに関わってケアマネさんの対応も見えてきますが、ケアマネさんが明らかにまずいことをしているのを包括さんも分かっているんだけど、なぜ市に上げないのという、市に上げてどうしようもないという話を何件か聞いた

んですよね。そのケアマネさんが明らかに問題があるというのは、市でも把握されている方が何名かいると思いますが、包括さんにしてみると利用者さんと家族を人質に取られているような感じらしいんですよ。何か言うと利用者の家族にケアマネさんが強いことを言ったりして、そこで家族が引くという例を何件か聞いたことがあります。

【細谷係長】 そういう時は包括から市にではなくて、片岡さんが良くないと思った時点で市に連絡をいただければと思います。

【片岡委員】 包括に言ってもいいかと聞くんですよ。

【細谷係長】 包括だから市に報告を上げなきゃいけないというわけではなく、ここに集まっている皆さんそうですが、虐待を発見したら報告しなければいけないことになっています。

【片岡委員】 虐待を見ているわけではなくて、関係者から聞いているだけで実際に見ているわけじゃないのでどうなのかなど。

【細谷係長】 疑いであっても市に連絡する義務は皆さんありますので、それは包括を飛ばしても、皆さんが悪いという事にはなりませんのでぜひお願いします。

【片岡委員】 やっぱそういうところが包括によって対応が違う。ちゃんと解決しようとする包括と、あいまいにしようとする包括もあるので。

【細谷係長】 そこを私どもに言っていたかかないと、こちらではどこなのかどうしたらいいのか分からないですし。

【片岡委員】 把握されていると思いますよ。

【細谷係長】 おっしゃったとおり、御家族や御本人さんに不利益になるというのが一番困りますので、そういう事案があったらぜひご連絡くださいという事をお願いします。

【片岡委員】 自己評価はかなり重要かなと思います。きちんと評価基準を出していただかないと、あいまいになってしまう例も私も見たことがあるので、そういうところが自己評価をやって、はっきりさせた方がいいと思います。

【細谷係長】 ありがとうございます。

(3) 議題 地域包括ケアシステム構築のための取組について

【事務局（小酒井主任）】 先程からも何件か御意見をいただいておりますが、地域包括ケアシステム、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるという理念から皆さんのお立場でどんな取り組みが可能か、せっかくの機会ですので、端から順にお一人2分程度で御意見を頂戴したいと思います。

【事務局（細谷係長）】 補足します。今佐藤委員、原委員からも市の方で今年新たに活動してきたことに関しての御意見をいただきましたが、私たちだけの力では、この地域包括ケアシステムの構築はできるはずありません。行政が一生懸命旗を振っても、他の関係機関の皆さんから御理解していただいたり、御協力をいただいたりしないとできない部分がほとんどだと思っています。市の考えは十分御理解していただいていると思いますが、今日は各団体からお出でいただいておりますので、各所属でどんなふうに取り組みを考えているのかとか、次年度こんなふうな方向でやっていくという話が出ているとか情報提供も含めて、先程の市の事業への御意見等でも結構ですので、ぜひご意見を頂戴したいと思います。

【揚石会長】 今、団体とのお話がありましたが、個人的な御意見でもいいと思いますし、議事録には残ってしまいますが、自由な意見という事でお願いいたします。

【原委員】 最初の議題1、初期集中支援チームのお話で質疑し忘れたんですが、閉じこもりとか認知症の人とか、割と初期集中支援チームの中で、申請状況が未申請のチェックリスト該当者、要支援1,2あたりで人数が出てきていますが、そのあたりの方々が、介護予防や様々な地域支え合い事業に該当する方々が何らかの問題を抱えていることも多いんじゃないかと思っています。こういう人たちに対して、どのぐらいの比率で支え合い事業の中に、認知症とかそういう問題を抱えている高齢者がいるのかと言ったところの把握をどうやってやったらいいのか悩むところではありますが、その辺をどう考えていらっしゃるのかという所と、先程の地域包括の再編計画、19包括あるところをぎゅっ

と縮めるということで、人員整理というわけではなく発展的な整備と理解していますが、このいろんな地域包括事業を実のあるものにしていかなければと思っていて、今地域に根差してやっているところも、まとまることで包括支援センターが遠くに行ってしまう人たちもいますし、市民は多少使いづらさは出て来るんじゃないかなと思います。そういうものをうまく活用していかなきゃいけないし、説明もしていかなきゃいけないと考えています。

【田中公委員】 柔道整復師会と申します。我々は、接骨院整骨院をやっている者の集まりですが、私どもが考えているのは、個別地域ケア会議に呼ばれて、我々も参加して発言させていただく機会もぽつぽつ聞いていますが、私どもを是非そういう会議に呼んでいただいて、いろいろ社会資源として活用していただきたいと思います。我々ができることというのが、まだ皆さんに伝わってなくて、我々柔道整復師と言いますが、どういうことをするのかわからないということがよくありまして、まず急性期の大腿骨骨折の患者さんの入院が終わって、リハビリが終わり自宅に帰ってきた時に、歩けるように支援をすることが我々も一部可能ではありますので、そういったところでもぜひ参加させていただきたいと思っています。それと、先程の地域支え合い事業の介護予防のところも参加させてもらっていますが、他がどういうことをやっているのかという情報交換をする機会がないので、個人的に他の先生に頼んでやっているところを見せてくださいと勉強させていただいたこともありますが、地域ごとの特色のあることをやっていけばいいと言われていますが、あまりにバラバラなことをするのはいけませんし、それぞれの良さを気付く場もあったほうがいいと思いますので、情報交換をしたりお互いのやっていることを見せていただいたりする機会があったり、あるいは生活支援コーディネーターの方々に対する研修会とかにも、我々呼んでいただければどういう方針でやっていくんだとか、そういうことも勉強になりますので、時間的な時間の都合がどうなのかがありますがそういうことを考えました。

【押山委員】 上越薬剤師会です。来年度、国の方で認知症対応力向上研修というの

が薬剤師に対してありまして、その認知症の早期発見に薬剤師も関われるんじゃないかということで、その対応をケアシステム構築の中に入れていきたいという事が1点と、薬剤師なので薬に関する副作用、生活面を教えて頂いて、そこから副作用の転倒予防とかそういったところで関わっていただけたら一番いいのかなと思っています。

【青山委員】

歯科医師会としては、もう少し訪問の口腔ケアや訪問診療に対して力を入れていきたいと思っていますし、それによって食べることを充実させることによって、認知症予防につながればいいと考えていますが、どうしても食べること、まずは医療の方が先になってしまうので、その辺の生活を向上させるために食べることがどれだけ結び付いているかという事を、もう少し一般の方に浸透して考えて頂くようにしたいというのが一番ですし、まだまだ実際に動けない方、診療に通えない方がかなり多いと思いますが、そういう方たちにもっと訪問診療があるという事を、実際に歯科医が訪問して治療できるという事を理解いただいて、その辺から介護予防に取り組んでいただけるといいと考えています。それとこれから県の事業として始まって、どの程度まで進むか分からないですが、現在新潟大学とかで摂食嚥下に関する取り組み、歯科医院としての勉強も始まっていますので、まだ人数は少ないですがそれをもっと浸透させていって、摂食嚥下の立場から、飲み込むこと、飲み込むことができるようになれば肺炎予防にもつながるということを皆さん御存じだと思いますが、それに対して歯科医師会としてもっと取り組んでいきたいと考えています。

【片岡委員】

新潟県社会福祉権利擁護ぱあとなあ新潟から来ております片岡です。ぱあとなあ新潟としては、基本的に成年後見制度の普及というのに努めていきたいと思っています。地域ケア会議等で、成年後見制度の説明をさせていただくこともありますし、包括支援センターから個々に御依頼いただいて、個々のケースに関して相談を受けている状況です。なかなか認知症の方、精神障害の方、知的障害の方に関しては、支援する方々がいらっしゃればいいですが、そういうのが欠如したり、支援者が居てもお金のことで問題がでてくるが多かった

り、虐待でもいわゆる経済的虐待ですね、その辺のことに關しては、ばあとなあ新潟として成年後見制度を利用することによりその対象者の方の保護に努めていくことですか、よりよい生活の支援に努めていけるかなと思っています。この地域にばあとなあのメンバーが支援していきたいと思っているのでよろしくお願いします。

【佐藤委員】 社会福祉協議会の佐藤です。社会福祉協議会でも、地域ニーズの把握だとか地域がどういう状況にあるのかというのを、ふれあい支え合いマップ作りという事業を通して、50世帯位のエリアを単位として取り組みを進めているところです。色々な方々の発見だとか、地域の人材、資源だとかというところは小さければ小さいほど見つけやすかったり、地域の方が分かりやすかったりということは実感としてあるので、その小さいエリアという所と、今進んでいる包括ケアという自治区という単位が、そこに住んでいる方のためという目的は一緒だと思っているので、介護予防とか閉じこもり予防という視点でどう結びついていくか、社会福祉協議会としてもしっかり考えていきたいですし、2年目を迎える包括ケアシステムの中で、市役所の皆さんとも議論をする必要があるだろうなというのは強く感じています。

【杉田委員】 地域包括システムのコアは何だろうという勉強会が、市民、福祉、いろんな項目でインターネットを見るといろんなところでやられていますが、いずれもその専門職の視点、市民の視点に偏りすぎていて、独居老人とか引きこもりがちな人の本当のニーズって何だろうというところが分かりにくくなっているんで、そこに視点を当てた共通の包括システム上の勉強の内容があると、おおもとの倫理のところからおさえていくといいのかなと市民の立場では思っています。これはちょっとと思う所や、より分かりにくくなる勉強会もあるので、本当のニーズという所の基本的な部分をおさえた、共通の市民を対象としたものがあれば良いなと思いました。あと制度が変わる中で、目標を数値で出さなければいけないという具体的なものはありますが、効果がないように見えても、繰り返すことによって本当の長期構想というのが必要になるので、皆さん大変だとは思いますが、そういう姿勢

も大事なのかなと思います。

【揚石会長】 皆さん専門の立場から見ると、身に染みた話で本当に素晴らしいと思います。

【竹内委員】 ボランティアの会の竹内です。私は一市民で一ボランティアですので、あまり専門的な事というのはわかりませんが、今お話を聞いた中で、ボランティアはこれからどういうふうに関わっていけばいいのかということを感じました。自分の会の見直すべきところが多くて、引きこもりとか今後ボランティアがどういうふうに関わっていけばいいのかというところが勉強するところで、分からない部分でもあるんですよね。そこを地域包括支援センターさんから勉強させていただく、先程もし何かあったら言ってくださいとありましたが、なんかドキドキして入りづらくて、一市民としては、あそこに行って相談するということができないんですよね。だから細々と 18 年間も見守りの会を町内でやっていますが、そこに行って相談をするということが会としてできなかったんですよね。今聞いて自分たちで行くのかっていう当たり前のことが分からないぐらいでした。だから悩んでいて、こういうことがあったら、こういうふうに協力してもらって、情報を得る、自分たちも勉強しなきゃいけないんだなということを感じました。

【田中美委員】 認知症の人と家族の会の田中です。包括さんと私たちの活動の関わり、私たちは何をやっているのかについてお話しさせていただきます。私たちの活動の基本は、地域でやっている集いというものです。介護家族が集まって自分たちの悩みを話すという場所を提供しております。上越市では上越と柿崎区で、月に 1 回、細々と 20 数年やっております。その際に柿崎の方では、包括さんの支援をいただいて無償で場所を提供していただき、それから介護家族の方に声を掛けていただいて、集いに参加していただくというようなお手伝いをさせていただいております。それから柿崎でやっている世話人が、包括さんの方で認知症カフェをやるけど、どうやっていいのかわからないので個人的にノウハウを教えてくださいという事で、包括さんに私たちの会の世話

人が関わって、認知症カフェの立ち上げのお手伝いをしているという
ような報告があったり、柿崎地区の包括さんたちでやっている認知症
の介護劇をDVDで作っていますが、そこで私たち世話人が関わって
役者としてやっているというようなことで、柿崎では積極的に家族の
会の会員が関わっている活動をしています。それは認知症の人と家族
の会でやっている一番大切な活動です。それと上越地区でやっている
のは、デイホームとなりぐみと言いまして、認知症カフェみたいなこ
とを20数年やっております。週に1回認知症の方とボランティアと
集まって1日過ごすというのをやっております。その中で最近市役所
の高齢者支援課の方やケアマネさんから御紹介いただいた方が、デイ
ホームとなりぐみに来ていただいて、介護者の方やご本人が関わって
いるという活動もしております。そのような形で、柿崎では包括さん
といろいろ関わりを持たせていただいておりますが、上越市はなかなか
包括さんと関わりを持つ機会がなくて寂しいなと思っております。
集いの時には、介護家族が初めて介護をする時、本当に何もかもが初
めてで分からない、何を相談したらいいかも分からないという状態の
方がいらっしゃった時には、包括さんを御紹介させていただいて、包
括さんに行って介護保険の認定の申請のこととか、そういったような
ことを相談できるんですよというお話しさせていただいております
ので、私たち介護者にとって包括さんはとても大切な窓口ですので、
ますます地域支え合い事業とか一生懸命やっていただいて、私たち介
護家族の光になっていただけたらなと思っております。

【丸山委員】

私どものJAでは、農を守る、地域を守るという事に重点を置いて地
域福祉に貢献していきたいと考えています。実際組合員や地域の皆さんに、
認知症サポーター養成講座、認知症予防講座、介護相談会や介
護技術講習会、知って得する介護の話など、様々なジャンルの講習会
など実施をして、地域住民の皆さんの心に入り込んでいるのが実情で
す。また健康寿命100歳プロジェクトということで、情報団体と力を
合わせて医療、食といったところの観点からも現在取り組んでいると
ころです。これから先色々な視点で、地域の福祉に貢献していきたい

と考えておりますのでよろしくお願いいたします。

【渡邊委員】 ケアマネの資質向上とか地域包括ケアシステムの構築に自分たちケアマネとして何ができるのか。現場の声を拾い上げて、これからも必要な研修とか勉強したいことは何なのかとかを考えながらお互いに切磋琢磨して地域に貢献できればと思っています。自分たちで疑問を持ったり、こういう研修を受けてみたいという事は、なかなか言う場がありませんが、こうして感じていることを素直に声に上げていくのが一番いいんだなと思いました。日頃は人の話を聞くことが多くて、自分の意見を言う機会が少ないので、皆さんのこういう話を聞くのも構築のためには必要で、ある程度自分たちから発信していけるように実のある研修の内容を考えていますが、精神的な病を抱えた若い世代の人たちが両親の介護をすとか、そうすると私たちは介護をすることに関してはレクチャーできますが、精神的な病を抱えた介護者さんをも支えなきゃいけない、そういうところの勉強をしたいですねと。そうすると住み慣れたところで親子で支えながら、在宅で介護を受けながら生活できるので、そういう取り組みをしていけたらなと考えています。

【中野委員】 やっぱり連携ってすごく大事だねっていうことで、地域包括ケアをみんなですていかなければいけないと思うのと、私たちは多職種共同の何とかという研修によく出ていますが、多職種って私の中では、それぞれの職のものばかりではなくて、今のボランティアの団体も一つなのかなと私はいつも思っていますが、そういう方が参加する研修会というのがないので、できれば包括さんの方とかでそういう場を設けてもらって、こういう資源があるので活用ができるよねという横のつながりが出来るんじゃないかなって個人的には思っています。

【揚石会長】 皆さんから御意見をいただいて、とっても素晴らしかったなと思います。それぞれの職務団体として、自らこんな課題があってこういうことをこれからやるのが自分たちの使命だという使命感を皆さん持って取り組んでいらっしゃるんだなというのが非常に伝わってきて本当に素晴らしいなと思いました。それともうひとつは、皆さんもお感

じになっていらっしゃると思いますが、地域包括ケアシステムは専門職間の連携というのはもちろんないとだめですが、それよりももっと土台のところでの市民レベルでのボランティアであったり、町内会であったり隣組であったり、市民レベルでの底上げというのが何と云っても大事であります。その市民の方々に、啓発と言うと一言になりますが、JAさんではこういうことをやっている、認知症の家族の会でも初心者の方にアプローチされている、ケアマネさんも介護者という市民に対してアプローチしている、皆さんそれぞれ市民ということを意識しながらやってらっしゃる気がします。国では市民レベルでの互助、助け合いというのをすごく持ち上げていますが、実際今日いらしていただいた竹内さんのようなことをやってらっしゃる方がそうそういない状況があって、第2第3の竹内さんのような方々がたくさん出ていかないと、なかなか盛り上がらないと思うんですね。そういう市民啓発というところを、皆さんの色々な立場からやっていただけるといいのかなと思います。ただ悲観的なことを言うようで恐縮ですが、長年私も地域でアプローチしているつもりですが、世代によって危機感の状況が違いまして、今の75歳から上の方々が10年前の65歳の時は、自分たちの老後はどうなんだろうというのを非常に危惧して、介護保険の制度もまだ成熟していない時期でしたので、自らががんばろうとかどうしようかっていう気概のある地域が多かったんですが、私の個人的な意見かもしれませんが、団塊の世代の方々は、そういう危機感が非常に薄い。ボランティアに対しても、その前の世代の方ほど熱心な方は私の周りにはあまり多くない気がします。それは世代でくくるのは間違いかもしれませんが、逆に言えば時代が変わってきていると、どんどん市民活動が盛んになっているかという、そうでもない。むしろ退化している部分があるんじゃないかという気がします。私もまだ団塊の世代よりは少し下ですが、私の世代も含めて50代60代の方に市民のレベルを上げるということが、この地域包括ケアシステムを上げていくためにはとても重要だと思っています。医師会としては、在宅医療と介護の連携を推進しようといういろいろな取り組

みを今後もしていくつもりですので、いろいろな仕掛けをしていこう
と思いますので、皆さんいろいろな団体の方にも御協力いただかなければ
いけない事ばかりですので、よろしく願いいたします。

【笹川課長】 ありがとうございます。皆さんからいただいた意見、特に市民のレ
ベルを上げなきゃいけないとか専門職だけの連携ではなく市民の含
めた連携等、非常に大切なことだと思っています。今後またそれらの
意見を踏まえた中で、地域包括ケアシステムの構築に向けて我々も取
り組んでいきますし、地域資源という言い方もありましたが、行政だ
けでできる話ではありませんので、皆さんの力を借りながら進めてい
きたいと思いますので、今後とも御意見等を寄せていただきたいと思
いますのでよろしく願いいたします。

【原委員】 皆さんの意見を聞きながら、最後に揚石先生がおっしゃった内容で、
私自身分かったことがあってお話しさせていただきます。地域包括ケ
アって何なんだろうなってずっと分からなかったんですが、今日の皆
さんのいろいろな話を聞きながら思うのは、つながりづくりなんだろ
うなっていうことが腑に落ちたんですよね。そういうことでいいです
か。

【揚石会長】 いいと思います。それは市民同士、ボランティアも専門職もそうだし、
いろんな立場が違って言語も違うんだけど、その中でつながって
いくという意識をかなり持って。

【原委員】 隣近所のつながりからですよ。そこから多職種連携に至るまでいろ
んな場所でのつながりが広がっていく。最初の私の話の内容に戻りま
すが、上越市は何に向かっていくのかなということもご検討いただき
たい。

【揚石会長】 杉田さんが少しおっしゃっていたケースですが、原理原則というかミ
ッションというか、何を目的としてやっていくのかというところで、
そこが明確なキャッチばかりじゃ良くないと思いますが、そういう
懇々としてくたびれた時に、そういえば上越市でこんな言葉があった
なというような。包括ケアシステム、独居老人も大事だし、もちろん
そうじゃない方もそうだと思いますが、どういうことをやるために担

っているのかだとか、そのことにはつながりが必要だよとか、社協さんのような地道な取り組みが大事だなんていうこととかを連想されるような、スローガンみたいなものがあるとスッと入っていただけるんだけどというようなことですよ。

【原委員】　そうですね。この地域に来て思うのが、どの地域もそうだと思いますが、特に過疎地域で暮らしている高齢者って、すごく元気な人たちが多くて、生き生きと暮らしているようでいて、ただいろいろな支援が必要でというところで、他と違うということじゃなくていいと思いますが、上越市の高齢者にはこうあってほしいというのが、スローガンのようなもので打ち出せると、制度に先駆けて頑張っている市としていいと思います。

【細谷係長】　実はスローガンはもうできていて、お配りしているサービスガイドブックとか、第6期の介護保険事業計画の市民説明会の方でも、市が目指す方向性というのはお示しさせていただいておまして、前回の運協の資料の中にも入っていたかなと思います。大きな目標は、高齢になっても介護が必要になっても住み慣れた上越で暮らすというところを最終目的としています。それを達成するにあたって、1から4つ項目を立てて、こういう姿を目指していきましょうというものを作らせていただいております。1つ目が高齢者の皆さんが、住み慣れた地域で今お話に出ていた地域資源とか自分に必要なサービス支援、それはサービスだけではなくて、見守りとか生活支援等も含めたものになります。そういった支え合いの体制ができているというのが望ましい姿だろうと。2つ目は、一人一人が介護予防の重要性をしっかりと認識して、生活習慣病等の重症化予防等の介護予防に各自取り組んでいる状態ということです。3つ目が、認知症に特化したものになりますが、家族や地域の方が認知症を正しく理解することと、すべての認知症の方が安心安全に生活をできている状態ということです。4つ目が医療中心になりますが、重度な要介護状態になっても、安心して快適な生活を送ることができるよう、医療介護住まいなどの環境が充実している状態ということで、この4つの状態を目指してそ

れぞれ自分が出来ることを頑張っていきたいと思いますということでお示しさせていただきます。

【原委員】 つながりのまち上越にしますか。

【揚石会長】 議論を踏まえた人たちはそれを聞くとよく分かるんだけど、その言葉だけだとちょっとわからないかもしれません。でもいい議論で良かったと思います。

9 問合せ先

健康福祉部高齢者支援課介護指導係 TEL : 025-526-5111

E-mail : koureisya@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。